

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団 慶 城 会		
事業所名	グループホーム仰星台 1号館		
所在地	宮崎県日向市大字塩見		
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570600298&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 22 年 7 月 27 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のニーズに対応できるような面会等の際には、気付いた事など率直な意見を聞かせて頂きサービスに生かし質の向上につなげております。医療面でも看護師が勤務しており緊急医療体制も母体の病院との連携が可能であり安心して頂いております。施設は、アットホームな環境、束縛のない家庭的な暮らしで一人一人を個人として理解、趣味や興味のあるものを生活に取り入れ毎日元気に安心して過ごせるよう支援しております。理念にもありますように後悔しない生活をお手伝い致します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然豊かな高台に位置しており、近隣には同法人の関連施設がある。医療機関が母体であり終末期の対応も体制が整っているなど、医療と介護の緊密な連携が図られている。認知症利用者に対する職員の意識が高く、介護ケアの中で自立支援・寄り添うケアを真摯に実践をしていた。ホームの組織上も職員が何でも意見が言える雰囲気管理者が作り上げ、風通しの良い、明るく、やさしさ溢れるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族、地域の方々とのふれあいを大切に地域を支え、支えられる馴染みの関係を築きますを理念とし、それを基に運営推進会議や夕涼み会を開催し、地域の方々に参加して頂き馴染みの関係が作れるように努めています。	ユニットごとに独自に理念を作り上げている。職員会議で内容の見直しを行い「地域密着」を加味した現在の理念が作成されている。理念は職員に徹底され、職員は勤務開始時に全員の利用者に挨拶するなど、利用者を第一に考えた具体的な実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の老人会や行事等には、事業所全体で積極的に参加し、交流を図っています。又、当グループホームでも運営推進会議や夕涼み会等、開催し地域の方との交流を深めています。	自治会に加入し地域の行事へ参加したり、ホームの行事に地域住民からのお手伝い等の参加も頻繁にされており、地域と良好な関係作りがなされていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	当グループホームでは、本年度より2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を行い地域の方や御家族に参加して頂き、認知症に関してのDVD鑑賞、グループホームでの現状報告を行うことで認知症に対する理解や支援方法を話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政の方、区長、民生委員、御家族の方など色んな方が出席して下さい、活発的な意見や要望が出され、職員も一つ一つの問題に取り組み解決出来る事は早急に対応してサービスの向上に取り組んでいます。	2か月に1回、定期的で開催し区長、民生委員、市の担当(包括支援センター)、家族、地域の消防団員などが出席して活発な意見が出されている。出された意見は、改善するなど具体的な取組みがなされ、会議が有意義に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点や疑問点などが発生した時は、情報提供をお願いして職員のスキルアップ及びサービスの質の向上に取り組んでいます。	不明な点は市の担当者に気軽に聞ける関係作りができています。これまでホーム行事の時に手伝いに来てくれたりと、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、状況に合わせて開閉を考慮しています。職員が多い時は、日中は施錠しない様心がけています。又、利用者の不穏時などは、その方の要求や要望をなるべく受け止め、心に寄り添うケアに取り組んでいます。	玄関の鍵は日中施錠しておらず、利用者は敷地内の畑などへ自由に出ることができる。見守る意識が強く、拘束の弊害についても職員全てがきちんと認識し寄り添うケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は暴力だけではなく、言葉の虐待もあるので、特に言葉遣いには十分に注意しています。又、研修等があれば職員の参加を促しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等は、積極的に参加して学ぶ機会は設けてあります。現在のところ、該当する利用者は、おりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際して、重要事項説明書並びに契約書や個人情報の取り扱い等に対しては、面接時に説明し、御家族の方も理解し納得して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けており、その事御家族へはお知らせしております。又、グループホームの管理者も窓口として受けております。申し立てがあれば職員間で協議し、改善に向けて反映させています。	意見箱の設置のほか運営推進会議や訪問時に意見を出しやすい雰囲気を作っている。法人内の介護支援事業所も意見・相談等のフォローをしている。家族からの意見は職員全体で検討し、実際に食事時間の変更を行うなど運営に反映して取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回の勉強会で意見交換が出来るようにしています。それぞれの意見等は皆で十分に話し合い運営に反映させています。	会議(勉強会)を月に1回定期で開催し、職員から意見が出しやすい雰囲気作りを管理者は心がけている。実際に職員も意見が言やすく、業務の改善につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護水準の向上、各種資格取得を支援して職員のレベルアップに努めている。そして、その成果を客観的に評価し、達成度合いに応じて正社員への転換、役職に昇進、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に資格を取りに行けるようにしています。研修は、交替で参加しスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム連絡協議会を始め市内のグループホーム管理者会等に参加交流を深め、当グループホーム内の質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に利用者の方との会話を設けて、何でも話して預ける様な雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時にゆっくりと話せる場を設け、家族の希望等をよく聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の希望を聞き入れながら必要なサービスを取り入れ支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることはして頂きながら、日常生活と一緒に共にし家庭的な雰囲気作りに努め、信頼関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日、文書で近況の様子を郵送でお知らせしています。面会時にも日々の様子等を報告し、必要なときには、電話で相談、支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は常時受け入れてます。遠方からの家族の面会の場合、希望があればホームに泊まって頂きます。馴染みの方が他施設にいらっしゃる場合等は、職員と共に面会に伺います。	以前の生活での馴染みの関係が切れないよう、美容室や買物など馴染みの店の利用を積極的に行っている。入居前の施設に出かけ、友人との時間を作るなどホームとしての工夫・努力が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活の流れを把握し明るく楽しい毎日が送れるようにコミュニケーションが図れるような、場を提供し穏やかな雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の場合においても病院への面会を行い状態の把握に努めます。行事(夕涼み会)等、御家族様をお誘いしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の出来事を把握して強制的にならないよう本人の意向に添った介護を提供しております。	本人や家族からの聞き取りや、意思疎通困難な利用者に対しては発語・しぐさ・顔の表情などから、くみ取るよう心がけ実践している。	センター方式の一部使用などを検討し、更なる思いや意向の把握ができるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人、友人等の面会等を通じて生活歴を知ることで毎日の生活に組み込み生活が活性化されるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの利用及びカンファレンス等を活用し職員間で討議し個々の状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスにて課題を討議しモニタリングや評価を行っております。本人家族の意向も考慮しながら介護計画作成を行っております。	定期(1か月に1回)で職員全員でカンファレンスを行い、モニタリングにつなげている。介護計画は特段の変化がなくても3か月に1回、変化のあった利用者の場合は随時変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に沿って実践できているかを簡潔に把握出来るようにフォーカス記録に変更し焦点を読み取ることで情報を的確に周知 記録時間の短縮 計画を実践に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で話し合い、個々本人や家族の状況、意思を尊重しながらサービス提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・地域・学校・民生委員等への行事の案内状を送り積極的に参加を促している。又、学校など見学や研修受け入れ等を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の定期受診を行っています。又突発的な場合でもDrとの連携を常に図ることで早期受診・治療に至っております。当HP以外にかかりつけ医がいる方は御家族同伴にて受診していただいています。	月2回の定期受診のほか、夜間も含めた突発的な場合もかかりつけ医が往診等対応をしている。かかりつけ医の多くが関連法人の医師ということもあり密接な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームは医療連携を図っており体調に異常や気づきがあった場合等、常に看護師とは連携を取れるように報告・連絡・相談をしケアを密に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は頻繁に職員が面会に行き主治医を中心にソーシャルワーカーや家族と意見交換をする機会を持ち早期退院に繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の気持ちを大切にしながら主治医の指示を仰ぎその方が安楽できるような介護を皆で話し合っております。終末期利用の御家族には主治医を交え出来ること出来ないこと、また家族の協力の必要性なども伝え理解を求めています。今後の対応も柔軟にできるように取り組んでいます。	かかりつけ医の意見も踏まえて、家族と話し合いを持っている。重度化・終末期の対応については、ホームとして出来ること、出来ないこと、また家族にお願いしたいことなどを明確にし、文書化して家族に渡すなど、取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間行事の中に救命救急法を取り入れ専門の方の指導の下、吸引機使用方法やAEDの操作を学んでおります。又月1回の勉強会で看護師による緊急時対応 対処方法 Dr・NSへの連絡方法を指導してもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の勉強会に職員で避難訓練に取り組み又、年2回定期的に消防署及び地区消防団に協力を得て総合訓練を実施して近隣施設・住民の方に協力が得られるよう働きかけています。6月に避難しやすいよう砂利道にセメントを張りました	3か月に1回の自主訓練や、毎月会議前に通報訓練などを行っているので職員の災害に対する意識は高い。1年に1回は地区の消防団に参加して頂くなど、積極的な対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時・入浴時などは特に対応に配慮しています。利用者を尊重しながら言葉かけや対応に注意しています。又記録など個人情報に関する書類は施設より持ち出さないようにしています。	一人ひとりの尊重は声かけにも徹底されており、不快な言葉かけや、言葉による拘束もない。利用者を写した写真などをホーム内などに掲示する場合は、事前に「同意」を得るなどの対応がしっかりとされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において常に自己決定していただくよう心がけています。自己決定が難しい方には分かりやすく説明を行います。日々の食事メニューも出来るだけ利用者の方の希望を聞きながら提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの時間はありますが参加は無理強いせず本人の希望に合わせています。利用者の日々の生活ペースを把握し本人の希望にあわせた支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は本人や家族の希望により近隣の大衆理容又ご家族が来られ散髪 カットを行っています。毎日の身支度は本人の希望を聞き訴えが難しい方にはその方らしいおしゃれ出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の出来る範囲で一緒に食事作りを行っています。白飯を好まない方には味付けのおむすびを提供したり個々の好みに添えるように努力しています。下善・片付けは利用者の協力を得て行っています。	買物への参加や調理、配膳・下膳などの利用者の参加(手伝い)が職員の声かけの下でなされている。職員の食事は検食する職員以外は、弁当を持ち寄り利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	以前は同じ献立のものを職員も食べていたので、更に食事を一緒に楽しむためにも再び利用者と同じものを食べるように取組まれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック・栄養バランスは一日10品目摂れるように食品分類表をつけています。利用者の状態に合わせて普通食・小刻み食に分類し提供しています。水分補給の時間をもつように心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・義歯洗浄・嗽の声かけの実施。夕食後の義歯は洗浄剤にて毎日消毒をおこないます。自分で出来る方は本人のペースに合わせ誘導や準備のお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全体の排泄チェックを行い支援の必要な方には紙パンツやオムツを使用、定期的にトイレ誘導パット交換を行い気持ちよく生活できるように支援しています。	チェック表を活用し、個々の利用者の排泄パターンの把握を行い、適切な声かけ、誘導等行っており、少しでも自立した排泄が出来るように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に各利用者の便の状態便の回数などを把握し水分補給(毎朝牛乳)や適度な運動緩下剤などでコントロールを図っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、日曜日以外毎日行い利用者のその日の体調(バイタル)希望に添って入浴されています。	入浴は月～土の午後の時間と設定してあるが、外出で汗をかいた利用者など夕方からの入浴支援を臨機に行ったり、入浴拒否の利用者には清拭を必ず行うなどの取組みがされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リハビリ体操ボール遊びなどを行い体を動かしてもらいます。不眠傾向時はDr診察にて眠剤の必要な方に臨時薬が処方され経過をみます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている効用などを把握し医師の指示の下で安全な服用に努めています。服用時は必ず服用したことを確認し症状の変化にも細心の注意をはかっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来ることを把握し無理せず自由に生活されるようにサポートいたします。趣味や興味のもてる事に焦点をあてそれらを提供いたします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブに出かけたり他の施設への慰問見学・花見や親睦会(焼肉)屋外食への参加を積極的に行っています。	2つのホームが建つ敷地は広く、庭には畑も作っており、ほぼ自由に利用者は戸外へ出て行くことが出来る。また買い物やドライブ、外食など出来る限り外出の支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の買い物ではお金を使うことは殆どありませんが、ドライブ・納涼祭の参加時に自分の欲しい品物をお小遣い持参で選んでいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時・又は本人の希望時は家族に電話をかけ本人の納得のいくように対応しています。家族へのお手紙も声掛けを行い無理強いせぬように気の向いた時に書いていただき支援をおこないます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気をつくる為にも季節ごとの模様替え利用者の方の飾り物を一緒に作ったり行事ごとの写真をホール内に飾ったり一緒に過ごしやすい生活を送れるように心がけています。日差しが強い場合はよしずを設置し利用者が居心地よく過ごせるよう対応します。	季節を感じる飾り付けやホームでの行事写真などが雰囲気良く掲示されており、決して幼稚ではなくやさしい感じを受けた。建物が高台にあるため風通しも良く、居心地よく過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事・レクリエーション活動など交流の図れる場を提供しています。施設内は皆でくつろげるように大型TV設置、ソファーに腰掛て広いテーブルでお茶を飲みながら談話ができる間取りです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの物、思い出深いアルバム・家具などを自由に持ち込んでいただき落ち着いた環境のもとで安らぎのある生活を送っていただけるように支援いたします。	テレビや筆筒、位牌など馴染みの物を自由に持ち込み、利用者個々の個性にあった居室が作られており居心地よく過ごせる配慮がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手摺を設置し安全に生活でき身体機能が維持できるように工夫しています。居室内の段差もなくし歩行時など身体に負担をかけないような環境造りをしております。		